

小・中学生の生活についてのアンケート調査報告
(速報版)

1 調査の背景および目的

近年、子どもを取り巻く課題として認識されてきているヤングケアラーは、本来大人が担うような家事や家族のケアを、子どもがその年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負って日常的に行うことで、その育ちや教育に影響があることが課題とされています。

しかしながら、ヤングケアラーを取り巻く課題は家庭内のデリケートな問題であること、さらには本人や家族に自覚がないといった理由から、支援が必要であったとしても表面化しにくい状況があるとも指摘されています。実際、本市が把握しているヤングケアラーと思われる児童数は、国や近隣府県が行った調査結果と比較すると非常に少なく、他に相当数のヤングケアラーが内在すると考えられます。

ヤングケアラーとなっている子どもやその家庭に効果的な支援を行うには、その現状を把握し、必要とされる支援内容を明らかにすることが不可欠であることから、次項以降のとおり実態調査を行ったものです。

なお、アンケートの実施に当たっては、国調査結果との比較を容易にするためにも、国調査と同様の質問内容を基本としました。

また、アンケートでは「ヤングケアラー」の言葉をあえて使用せず質問をしています。これは、「ヤングケアラー」という言葉を知らない児童がいることや、逆に意識しすぎて本意と違う回答をすることがないように、回答する児童の心理的負担を小さくするため、国調査と同様に「生活についてのアンケート」として実施しました。

本報告は、このアンケート結果から、本市でヤングケアラーと思われる児童の把握を行ったものの概要になります。

2 調査の対象および方法

2.1 調査対象

| | |
|---------------------|--------|
| 市立小学校に在籍する小学5年生～6年生 | 2,148人 |
| 市立中学校に在籍する中学1年生～3年生 | 3,019人 |
| 計 | 5,167人 |

2.2 調査期間

令和4年9月26日(月)～同11月15日(火)

2.3 調査方法

無記名式アンケート(学校において調査期間内に一定の時間を取っていただきタブレットを活用した電子アンケートを実施)

※一部、タブレットの使用が困難な児童においては紙面によるアンケートを实

施の上で合算した。

2.4 回答数

| | |
|---------------------|------------------|
| 市立小学校に在籍する小学5年生～6年生 | 1,936人（回答率90.1%） |
| 市立中学校に在籍する中学1年生～3年生 | 2,387人（回答率79.1%） |
| 計 | 4,323人（回答率83.7%） |

3 ヤングケアラーに関する主な調査項目

- ・ お世話している家族の有無
- ・ お世話している家族がある場合は、その内容や相談先の有無
- ・ 学校や周りの大人にしてほしいこと など

4 調査結果のポイント

調査結果の内、特に注目する事項は次のとおりです。

| 調査項目 | 小学生 | 中学生 | 計 |
|-------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| お世話している家族がいる | 19.8% (384人) | 11.0% (262人) | 14.9% (646人) |
| 内、お世話の頻度が週に3日を超える | 66.7% (256人) [全体割合] | 56.5% (148人) [全体割合] | 62.5% (404人) [全体割合] |
| | 13.2% | 6.2% | 9.3% |
| 内、生活への影響を感じている | 33.9% (130人) [全体割合] | 25.2% (66人) [全体割合] | 30.3% (196人) [全体割合] |
| | 6.7% | 2.8% | 4.5% |

- ・ お世話している家族がいる児童の中には、お手伝いと考えられるような軽微なものが含まれていると考えています。
- ・ 軽微なものであってもお世話の頻度が週に3日を超えるような頻回な場合は、育ちに何らかの影響が出る可能性があると考えられます。
- ・ よって、本市ではお世話の頻度が週に3日を超える児童（全回答数の9.3%（404人））の数を家族のお世話を日常的に担っているヤングケアラーであると仮定して支援策の検討をすすめることとします。

お世話をしている家族がいる児童について、その対象と内容、相談先は複数回答の上位3項目は、多かった順に次のとおりです。

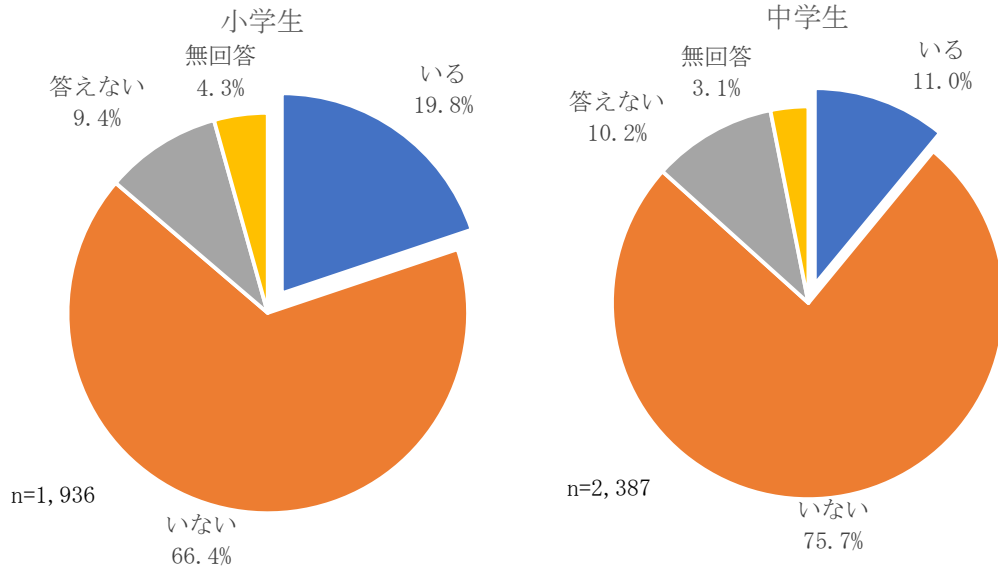
| 調査項目 | 小学生 | 中学生 | 計 |
|-------------------|-----------------|-----------------|------------------|
| お世話を必要とする家族（複数回答） | きょうだい 224人 | きょうだい 146人 | きょうだい 370人 |
| | 母 113人 | 母 71人 | 母 184人 |
| | 父 78人 | 答えない 55人 | 父 131人 |
| お世話の内容（複数回答） | 家事 146人 | 家事 99人 | 家事 245人 |
| | 見守り 140人 | 見守り 74人 | 見守り 214人 |
| | 話を聞く 102人 | きょうだいの世話 68人 | きょうだいの世話 164人 |
| 相談したことがある | 29.4% (113人) | 15.6% (41人) | 23.8% (154人) |
| 内、相談先（複数回答） | 家族 96人 | 家族 36人 | 家族 132人 |
| | 友達 53人 | 友達 22人 | 友達 75人 |
| | 学級や学年の先生 12人 | 学級や学年の先生 16人 | 学級や学年の先生 28人 |

5 今後の支援の方向性

- 本調査の結果を踏まえ、少なくない数の児童が家族のお世話を日常的に担っている事実を周知することで、地域、学校等での対象児童の把握と支援につなげます。
- 今回、調査対象とした児童に対して、調査結果を含めた啓発チラシを配布することで、当事者から相談しやすい環境の整備を図ります。
- アンケート調査結果の詳細な分析を進め、児童を含む家庭全体が抱えている困難を把握するとともに、必要とされる支援策の検討を行います。
- アンケート調査結果の詳細な分析は年度内に取りまとめ、公表する予定です。

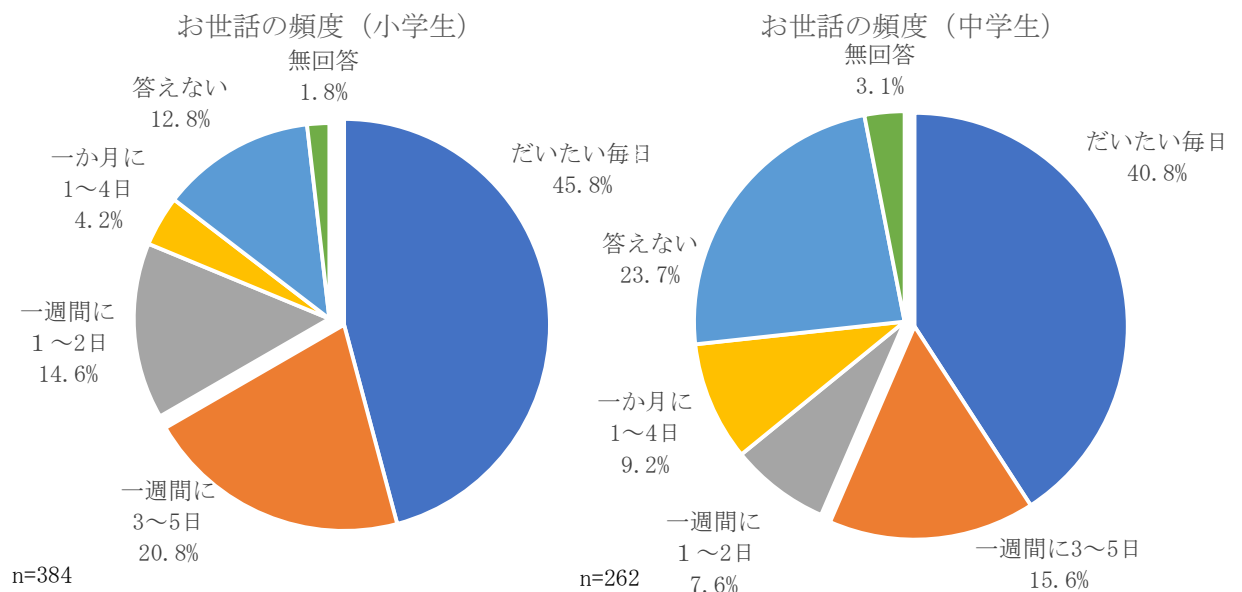
6 主な調査結果

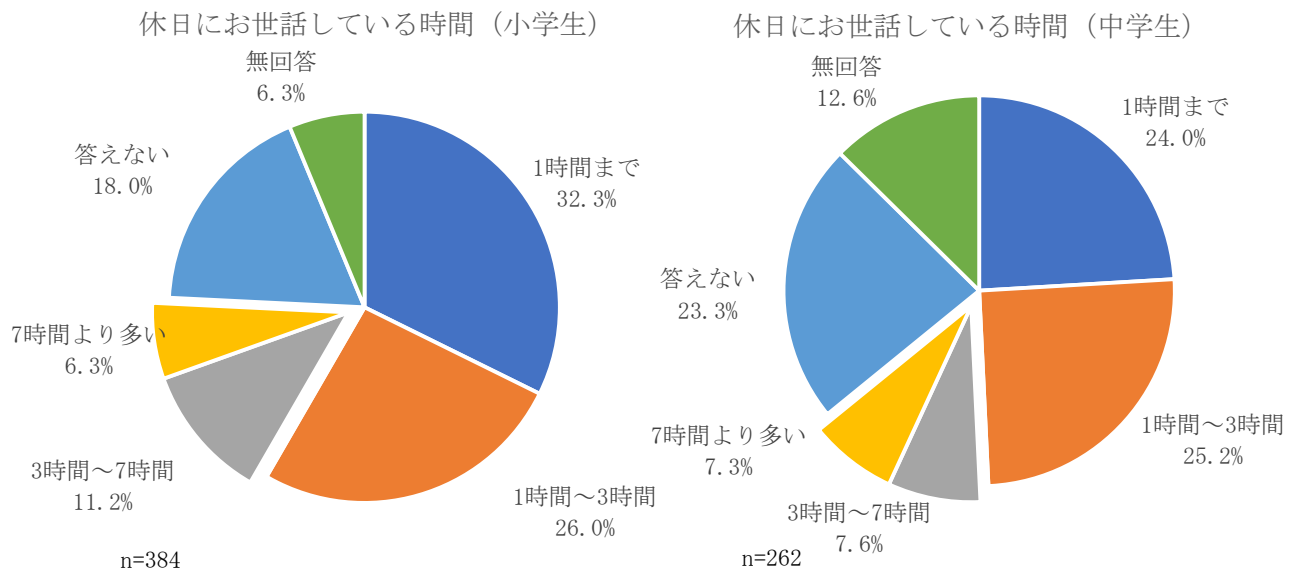
6.1 家の中にお世話をしている人はいますか



- 「お世話している人がいる」と答えた児童（次の設問でお世話している対象がペット等と回答した児童を除く）は小学生で19.8%（384人）、中学生で11.0%（262人）でした。
- 国調査（注1）の結果（小学6年生6.5%、中学2年生5.7%）と比較して、「いる」と答えた割合が特に小学生で大幅に大きいのは、いわゆるお手伝いが含まれているためと推測されます。

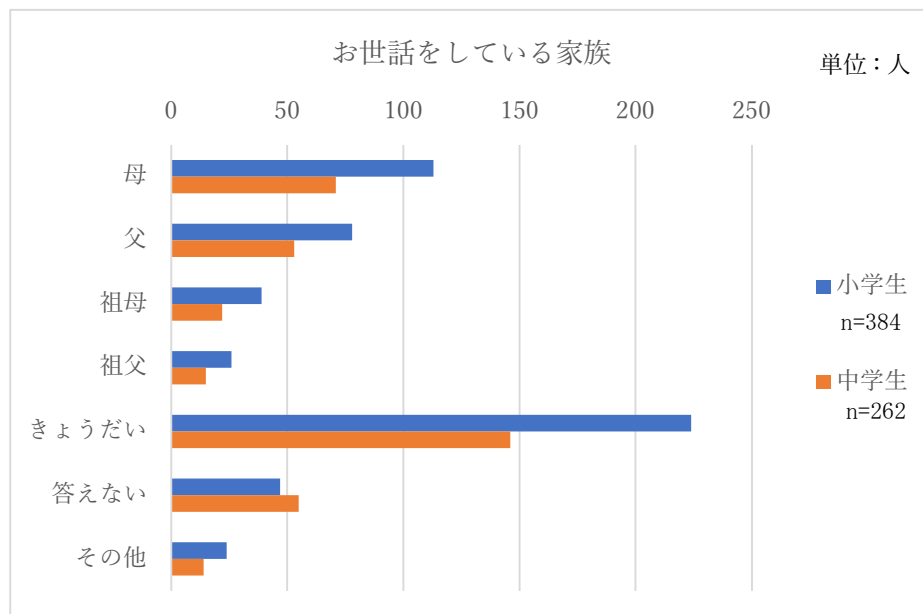
6.2 お世話の頻度・時間





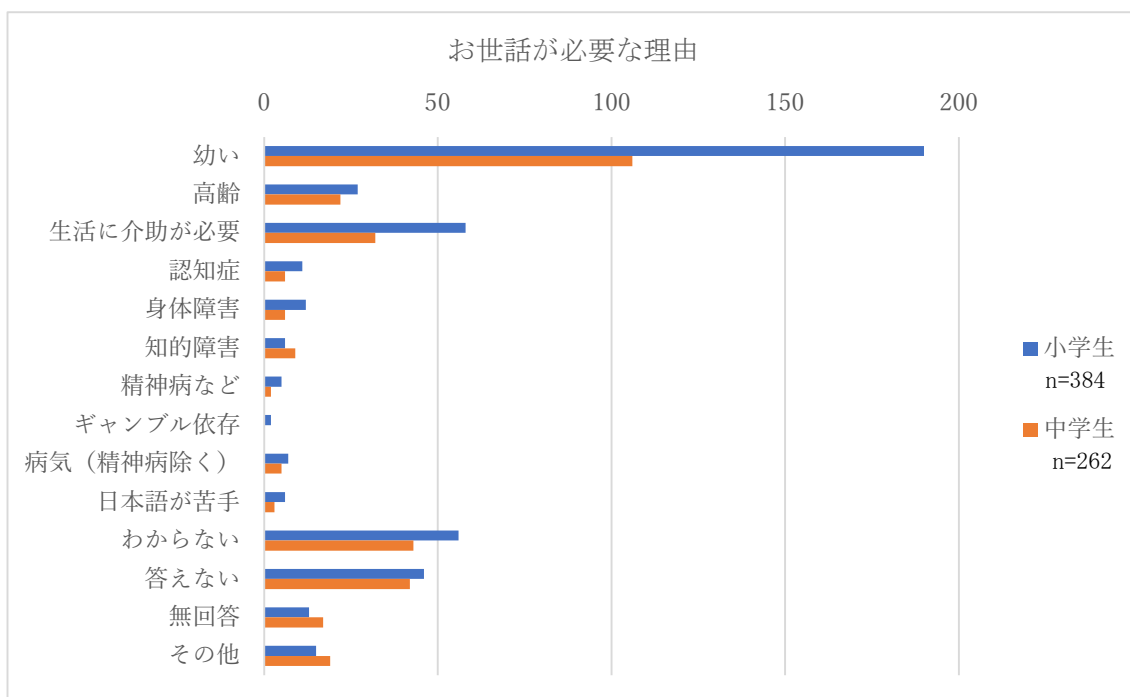
- ・ 週に3日以上お世話している児童が小学生66.6%、中学生56.4%であり、国調査より若干少ない（小学6年生68.9%、中学2年生63.0%）傾向を示しました。また、休日お世話している時間は3時間以上が小学生17.5%、中学生14.9%であり、国調査（平日のお世話の時間3時間以上 小学6年生29.9%、中学2年生33.5%）と比較してお世話している時間が短時間である傾向がみられました。
- ・ 休日の方がお世話にかけられる時間が長くなることが予想されることから、本市児童はお世話にかかっている時間が短い者が多いと考えられます。
- ・ 時間の長短だけで負担の軽重が決まるものではありませんが、お世話をしている家族がいると回答した児童の中に、いわゆるお手伝いが一定程度、含まれていると考えられます。

6.3 お世話が必要な家族



- お世話が必要な家族は「きょうだい」が最も多く小学生 224 人、中学生 146 人となっており、国調査と同様の傾向がみられます。
- 祖母、祖父の割合はいずれも低く、合計できょうだいの 3 割弱となっています。

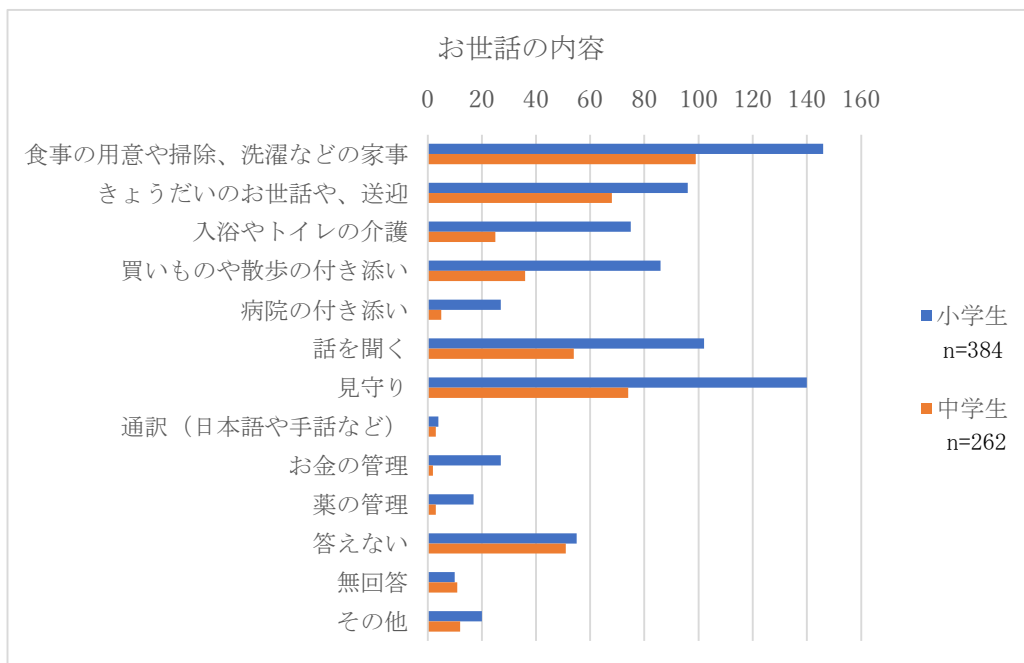
6.4 お世話が必要な理由



- お世話が必要な理由は「若い」が小学生 190 人、中学生 106 人で最も多くなっています。

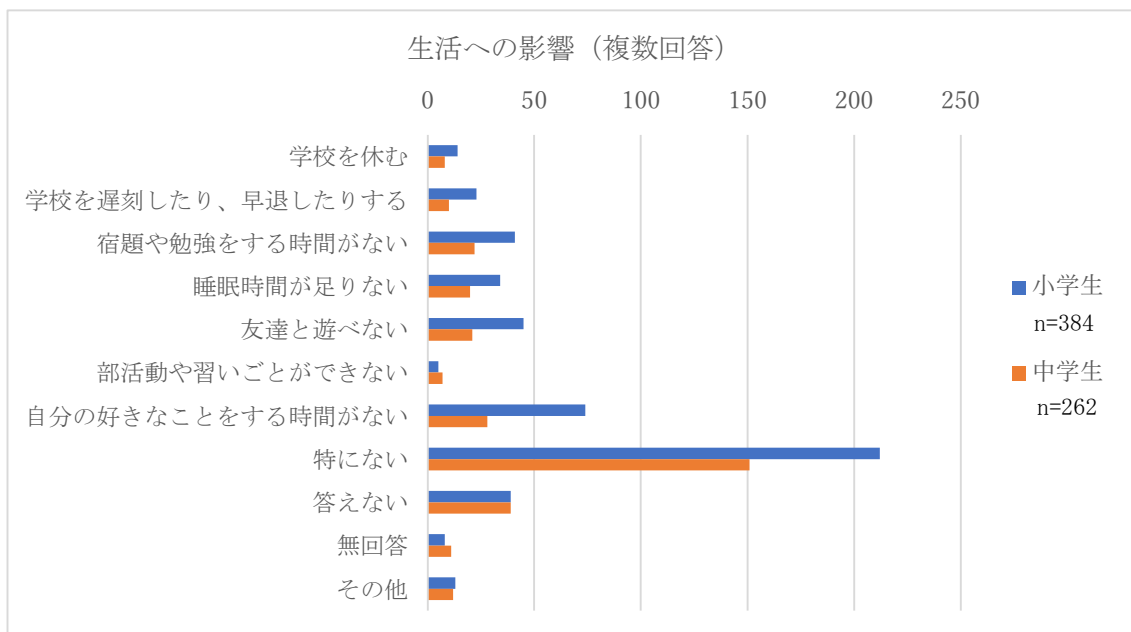
- 「わからない」、「答えない」の回答も多く、児童自身は、お世話が必要な理由を理解していなかったり、隠したいと考えていたりする可能性があると考えられます。

6.5 お世話の内容



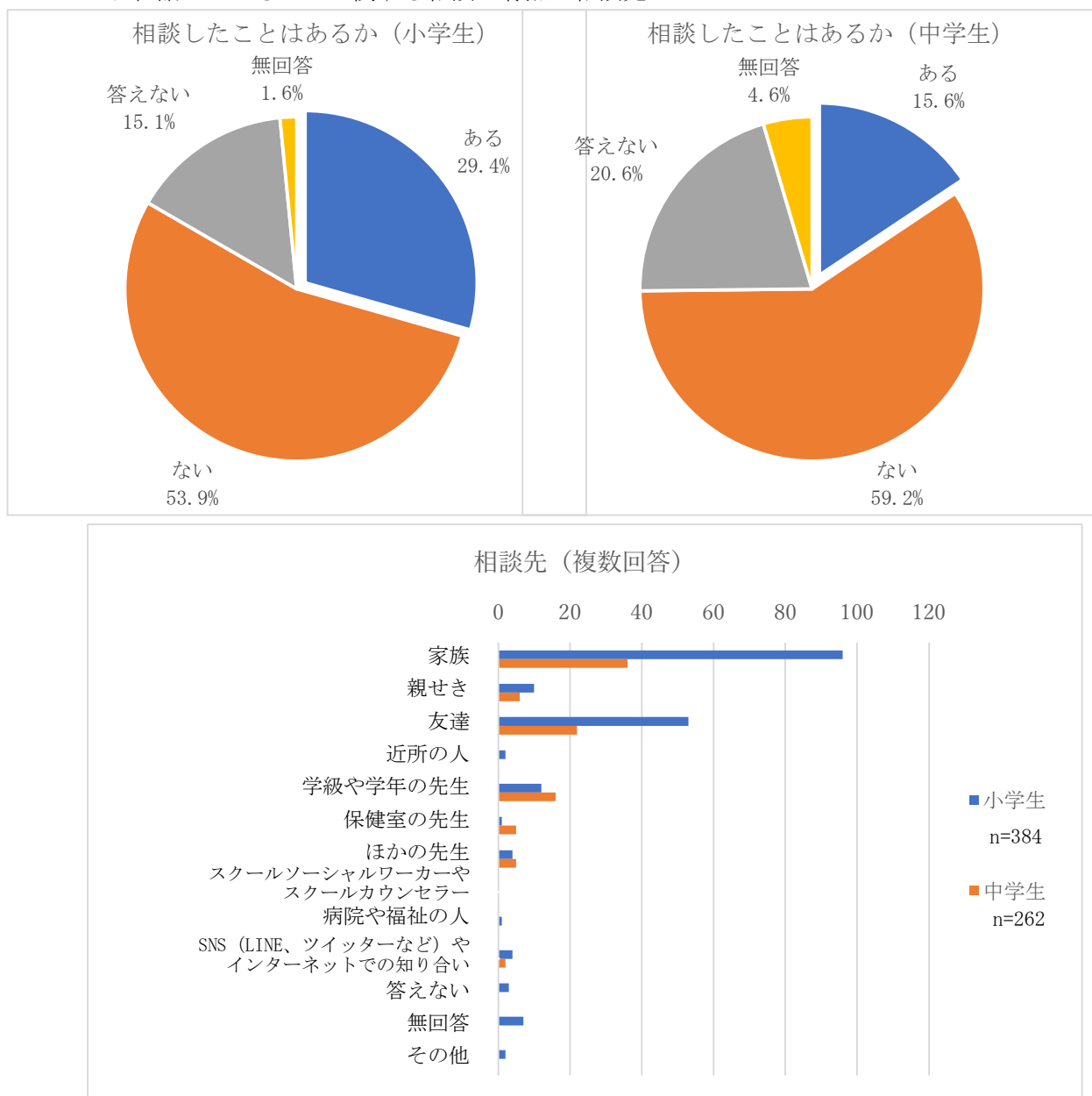
- お世話の内容は「家事」が小学生 146 人、中学生 99 人で最も多く、次いで「見守り」、「きょうだいのお世話」の順となっています。

6.6 生活への影響



- 「特にない」が最も多くなっていますが、それを除くと、「自分の好きなことをする時間」や「勉強をする時間」がないことがわかります。
- 何らかの影響があると答えた児童は小学生 130 人、中学生 66 人で、お世話している家族がいると答えた児童の約 3 割になります。

6.7 お世話していることに関する相談の有無と相談先



- 相談したことがある児童は小学生 29.4%、中学生 15.6%になっており、中学生は小学生と比較して相談していないことがわかります。相談先は小中学生ともに家族が最も多くなっています。

- 相談先は次に友人が多くなっており、家族以外の大人には相談しない傾向がみられます。